

極早生温州が収穫期に入りました。
着色の進み具合や減酸を確認し、収穫しましょう！
また、早生温州は樹上選果を進めましょう。

令和3年9月の気象

令和3年9月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1～第2半旬が平年より低く、第3～第4、第6半旬ではほぼ平年並み、第5半旬は平年より高かった。月平均気温は22.2℃で、平年より0.7℃低く、前年より1.7℃低かった。

降水量は第1、第3半旬で平年より多く、第2、第4～第6半旬は平年より少なかった。月合計は198mmで、平年の85%、前年の123%であった。

日照時間は第1～第3半旬で平年より少なく、第4～第5半旬は平年より多く、第6半旬は平年並みであった。月合計は125時間で、平年の82%、前年の91%であった。

9月は全体的には平年と比べて気温は低く、降水量は少なく、日照時間は短かった。

表1 令和3年9月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	21.8	24.7	27.2	54	16	34	2	30	33
2	21.2	24.5	26.7	47	57	68	20	29	35
3	23.2	23.5	24.6	53	25	14	15	27	18
4	22.5	22.8	24.7	33	48	3	29	25	21
5	23.7	21.4	20.4	3	46	33	39	22	6
6	20.6	20.6	19.8	10	41	12	22	21	24
平均/計	22.2	22.9	23.9	198	232	161	125	153	137

2 果実及び樹の生育

10月4日における調査園の果実生育状況を表2に示した。横径は「日南1号」が7.3cmで平年の109%であった。「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ5.6cm、6.4cm、6.5cmで、平年の95%、102%、105%であった。

縦径は「日南1号」が5.4cmで、平年の106%であった。「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ4.3cm、4.4cm、4.6cmで、平年の90%、94%、98%であった。

果形指数は、「日南1号」が1.4、「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ1.3、1.5、1.4であった。全ての品種において、平年より果実が扁平な傾向がみられた。

表2 果実の生育（令和3年10月4日）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	暖地園研	7.3	6.7	6.6	5.4	5.1	4.8	1.4	1.3	1.4
興津早生	三芳地区	5.0	5.9	6.3	3.9	4.8	4.9	1.3	1.2	1.3
	千倉地区	5.4	5.7	5.3	4.3	4.6	4.2	1.3	1.2	1.3
	暖地園研	6.4	6.0	6.3	4.8	4.9	5.1	1.3	1.2	1.2
	平 均	5.6	5.9	6.0	4.3	4.8	4.7	1.3	1.2	1.3
大津4号	三芳地区	6.0	6.2	6.0	4.2	4.7	4.7	1.4	1.3	1.3
	千倉地区	6.1	6.3	6.5	4.2	4.6	4.8	1.5	1.4	1.4
	暖地園研	7.1	6.4	6.4	4.7	4.7	4.6	1.5	1.4	1.4
	平 均	6.4	6.3	6.3	4.4	4.7	4.7	1.5	1.4	1.4
青島温州	三芳地区	5.9	6.1	6.1	4.3	4.7	4.7	1.4	1.3	1.3
	千倉地区	6.3	6.1	6.3	4.4	4.6	4.7	1.4	1.3	1.3
	暖地園研	7.2	6.3	6.3	5.1	4.7	4.8	1.4	1.3	1.3
	平 均	6.5	6.2	6.2	4.6	4.7	4.7	1.4	1.3	1.3

- 注1) 各地点の各品種の値は40果の平均とした
 ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した
 2) 果形指数は、横径／縦径とした

「日南1号」の果実品質

「日南1号」の果実品質を表3に示した。

着色程度は平年並みで、着色が遅れた前年より高かった。糖度は平年及び前年と同程度であった。酸度は平年及び前年より低かった。そのため、甘味比は平年及び前年より高かった。

果肉歩合は平年及び前年より高かった。

前年より着色が進んでおり、収穫期に入ったと判断される。

表3 極早生温州「日南1号」の果実品質（令和3年10月4日）

調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
暖地園研	3.9	4.0	2.6	8.6	8.4	8.3	0.88	1.03	0.96	9.8	8.4	8.7	91.3	83.6	86.1

平年値は平成27～令和2年の平均値

甘味比＝糖度／酸度

果肉歩合＝（果肉重／1果重）×100

10月の栽培管理

(1) 極早生温州の収穫

着色の良好な果実から順次収穫していく。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫直後の果実は果皮の水分が多いので予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 早生温州の樹上選果

収穫1ヶ月前の10月上～中旬に、傷果や病虫害被害果などを取り除き、収穫、運搬及び選果の労力を軽減する。

(3) 浮皮症の軽減対策

収穫期に過湿条件であると浮皮症が発生しやすいので、防風垣を刈り込んで通風を良くし、排水対策を講じて園地の乾燥に努める。

(4) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり分量で6、4、6kg追肥する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には収穫後直ちに液肥を散布する。

(5) 病虫害の防除

10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病及び緑かび病の防除のため、殺菌剤の散布を行う。ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、極早生温州等の収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>